

理研會報

發行
印教研 理科研究部
事 務 局
成田市立成田小学校
成田市幸町94801

第38次教育研究集会

理科研究部集會報告

低学年分科会 講評

五味健

主題の難しさであろう。

最近、各部会ともグループ研究も理解するのに時間がかかるのが定着しているのは良いが、実践ある。これでは、共通理解するのに一年も二年もかかる訳である。

なる。この事を考えると、部会で決めたテーマや仮設の共通理解が十分になされていないと、テーマや仮設と遊離した検証になつてしまふ。授業実践した先生が、自分

結果として仮設がまた具体的に乏しいのである。仮設が抽象的である事は、何をするのかが不透明になり何となくやっている、という結果になりやすいのである。

の行った授業と主題との関係がどうなっているのか、よく理解していないのではないか、という様子が見られないでもない。

そこで、研究内容は、より現場発想的に的を絞った深いものにしたい。今から次年度の発表に向けて研究を始めたい。

問題は、部会で取り上げた研究

究で、厚みのある研究といえよう。

ただ、テーマが大き過ぎたり、

実験方法だけに入り込み過ぎたり
問題がないわけではない。特に
「意欲」「考える態度」「個々を
生かす」といった主題を、限定な

しに追求したためか、焦点が定まらなかつたのが悔やまれる。

しかし、このテーマも現場でのどの問題がある。それを克服して悩みの中から抽出されたものである。「産みの苦しみ」、そこに、むしろ、その解明や方向づけは、現場しろ、本当の意義を見出したところでしよう。

大きな示唆となったことは確かであろう。また、テーマの大きさから、この研究から出発して、各教師がそれぞれの現場で、息の長い研究・実践を続けていくことを心から期待している。

研究の方向としては、どの部会の内容も、日常の授業実践から生じた、身近で課題性の高いものである。わかる授業、楽しい授業、自然を調べる能力、興味関心を高める等、先生方の熱意や願

最後に、各部会個々に講評するが読み取れる。

余裕がないので、共通している部分はいくつか指摘しまとめるところにする。

一、用語や概念がはっきりしないままに使われている。い

で、教材教具の開発に目を向け、ちよつとした素材や心掛けで、夫の大切さを教えている。改良、実践を期待している。

中学校分科会 講評

今井和彦

各部会とも共同研究を進めてい

この問題がある。それを克服して
の「産みの苦しみ」、そこに、む
しろ、本当の意義を見出したこと
でしよう。

今年で三回目の参加をしました。毎回、各部会の提案には感心させられます。私自身、今までやってきたことを振り返り、これではない、もっとやれることがあるのではと反省しています。

いつもながら、理科教員の熱意が感じられ、大変参考になった。特に、一部会から五部会まで「やりづらいな」「いい方法はないかな」と目頃思っていることばかりなので、私にとって勉強の出来る

低学年理科は来年度から生活科集会である。三部会の研究員として移行するということで、他教科で準備している段階でも、雑談の関連させて指導計画を練ったり中から色々な話を聞くことができ、生活科の目標をふまえた研究を始助かっている。

める等、先を見通したものが多く、今回、私が興味を持ったものは見られたように思います。どの提案も素晴らしく、日頃授業する際に困ったこと、深めたいことを取り上げ、時間をかけて研究に取りである。「オオカミとウサギのシ

低学年分科会に参加して

中奥小 嶋田 深佳子

中学校分科会に参加して

本塾中 大三川 弘

サイクルに視点を当てた着実な内容であつた

五部会は、中学校で不足している情意面からのアタックは注目する。今後の研究実践の広がりと深まりに期待したい。

参加員 土月

参加会

員の声